

広島県理学療法士(協)会 代議員立候補者

定 数 : 10 名

立候補者数 : 11 名



氏名 甲田 宗嗣

都道府県士会 広島県

年齢 40

勤務先名称 広島都市学園大学

協会・士会役員歴

【日本理学療法士協会役員歴】代議員（平成22年～現在）
 【日本理学療法士学会役員歴】日本神経理学療法学会運営幹事（平成25年～現在）、精神・心理領域理学療法部門運営幹事（平成25年～現在）
 【広島県理学療法士会役員歴】学術局学術誌部長（平成15～21年）、学術局学術研究部長（平成21～23年）、常任理事・広報局長（平成23～27年）、副会長・職能調査部長（平成27～現在）、第18回広島県理学療法士学会会長（平成25年）第31回中国ブロック理学療法士学会会長（平成29年）

立候補の趣旨

言うまでもなく、日本理学療法士協会や都道府県理学療法士会は職能団体です。私は、職能団体の役割は1)職業能力の向上と開発、2)安定雇用と待遇改善、3)職域拡大だと思います。学術活動や政治活動はそれらそのものにも役割があるでしょうが、職能団体の役割を補うことも重要な役割だと思います。日本理学療法士協会は組織が大きくなり、社会的地位も向上してきた背景において、学会と政治連盟が別組織として独立した形で機能し始めてきたことを実感します。

この流れは、種々の背景を考えると自然なことなのかもしれませんが、職能団体の役割を効果的に果たす観点から考えると組織間の議論を見える化していただきたいと思えます。論点がはっきりしないまま意思決定が行われてしまうと、組織の末端にいくほど意思決定の文脈を理解できず、「決まったことだから兎に角やってくれ」としか説明できなくなってしまうことが多々あるように感じます。

ひるがえって、広島県理学療法士会の組織を考えると、十分な論点整理が行われてきたかという点、学会にしても政治活動にしても恥ずかしながら十分であったとは言えないように思います。私は、このような自戒の念とともに再度代議員に立候補し、これまでの私の経験を活かして論点整理に務めたいと思えます。

広島県理学療法士会員の皆様のご支援を受け、職能団体としての活動を前進させたいと考えておりますので、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



氏名 猪村 剛史

都道府県士会 広島県

年齢 31

勤務先名称 広島大学大学院保健学研究科

協会・士会役員歴

2011年8月～ 広島県理学療法士会 広報局 部員
 2014年3月～ 広島県理学療法士会 広報局 会員情報部 部長
 2015年4月～ 広島県理学療法士会 理事

立候補の趣旨

私はこれまでに脳神経外科領域を中心として、急性期、回復期、生活期の臨床を経験し現在は大学で卒前教育および研究に従事しております。また、広島県理学療法士会の役員として様々な士会業務に携わってきました。若輩者ではありますが、それらの貴重な経験の中で得たものも多くあります。

激動の協会事業や士会事業の中で、会員やこれから理学療法士となる学生がやりがいを感じられる組織にしたいと思い、代議員に立候補させていただきました。よろしく願いいたします。



氏名 廣澤 隆行

都道府県士会 広島県

年齢 40

勤務先名称 広島市立安佐市民病院

協会・士会役員歴

2007年4月～2009年3月	広島県理学療法士会学術局学術研究部長代理
2009年4月～2011年3月	広島県理学療法士会学術局学術誌部長
2011年4月～2013年3月	広島県理学療法士会教育局教育研修部長
2013年4月～2015年4月	広島県理学療法士会教育局長
2015年4月～	広島県理学療法士会広報局長
2011年4月～	日本理学療法士協会代議員
2011年4月～2017年	日本理学療法士協会広報部部長
2010年	第15回広島県理学療法士学会副学会長
2013年	第18回広島県理学療法士学会企画局長
2017年	第31回中国ブロック理学療法士学会副学会長

立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会代議員に立候補した廣澤 隆行と申します。私は日本理学療法士協会代議員制が開始された時から、継続して代議員を務めています。

日本の高齢者人口は、「団塊の世代」が65歳以上となった平成27年に3387万人となり、「団塊の世代」が75歳以上となる平成37年には3677万人に達すると見込まれています。このような状況の中、国民の医療や介護の需要とともに、理学療法士の需要もさらに増加することが予測されます。

この問題を解決していくために以下の2つのことが必要と考えています。

1. 理学療法士が地域包括ケアに積極的に関わることができるような組織運営
2. 人材を育成する教育システムの確立

現在、理学療法士は急激に増加し、日本は世界的にも理学療法士の多い国となっています。また、その多くは20歳代、30歳代前半で構成されています。たくさんの理学療法士の若い力をよりよい方向に、また、理学療法法の更なる可能性を広げていくことで、国民の健康、生活に寄与することができると思います。

代議員は会員一人ひとりの意見の代弁者で、日本理学療法士協会の運営を決定していく任務があります。上記のことが実現できるよう精進してまいりたいと考えています。



氏名 谷口 亮治

都道府県士会 広島県

年齢 50

勤務先名称 広島市立安佐市民病院

協会・士会役員歴

平成15年～18年度	(社) 広島県理学療法士会	事務局 庶務部長
平成19年～26年度	(公社) 広島県理学療法士会	事務局長
平成27年～現在	(公社) 広島県理学療法士会	西部地区局 広島北支部長
平成26年～29年度	(公社) 日本理学療法士協会	代議員
平成29年	第31回中国ブロック理学療法士学会	準備委員長

立候補の趣旨

2012年4月から始まった診療・介護報酬同時改定では、「施設から在宅（地域）へ」と方針転換となり、国が目標とするのは、住み慣れた地域で医療や介護、生活支援などを受けられる「地域包括ケアシステム」の確立にあります。これに向けて、日本理学療法士協会は、このシステムを推進するために「地域ケア会議」「介護予防」の2つの施策に重点を置いて、これらに関わることができる人材として、地域包括ケア推進リーダー、介護予防推進リーダーの育成を始めました。広島県理学療法士会でもその要請を受けて、平成26年から各リーダー研修会を企画し人材の育成を進めていますが、現在、支部長としても各リーダー取得者から協力が得られるよう取り組んでいます。

これとは別に、平成6年から始まった新人教育プログラム、平成9年からは専門理学療法士制度による生涯学習が制度化されましたが、平成33年4月には認定理学療法士の取得に至る過程が新制度に移行されます。新制度は研修理学療法士プログラム、登録理学療法士プログラム、認定理学療法士プログラムの3つの枠組みから構成され、特に、研修理学療法士プログラム、登録理学療法士プログラムの一部については、都道府県理学療法士会が担っていくことになると思われます。

これらの情勢を踏まえ、日本理学療法士協会の執行部に対して、広島県理学療法士会の小さな組織単位である支部からの代弁者となるため、さらにはシームレスな支部活動を進めるために代議員に立候補いたしました。

会員の皆さまからのご支援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。



氏名 伊藤 義広

都道府県士会 広島県

年齢 55

勤務先名称 広島大学病院

協会・士会役員歴

立候補の趣旨

大学病院の理学療法士として34年間勤務しておりますが、広島県理学療法士会の役員歴はありません。専ら臨床現場で診療、教育、研究に従事して参りました。現在は、部長として多職種の管理業務に従事しております。今回、下のような背景、経験により代議員として協会活動に参画したいと考えております。

私は日本理学療法士学会設立に伴い分科学会・部門のひとつである理学療法管理部門の代表幹事（～平成29年6月）としてこれからの理学療法管理の将来像検討に携わりました。また日本理学療法協会の依頼を受けて管理者育成の仕組みづくりに協力させていただきました。

全国には会員が所属する施設が16,000超、広島県には489あります。各施設の主任・リーダーあるいは技師長に相当する理学療法士がマネジメント能力を発揮し、個人・組織の機能をより有効に活用することは、良質な理学療法法の提供、職域や役職の維持、あるいは新規事業の展開においても有益です。

また理学療法士が診療データを病院経営の視点から分析することは、クリニカルインディケ이터や診療報酬改定対応の基礎資料として役立ちます。さらに地域包括ケアにおいては、理学療法士がリーダーシップを発揮して多職種と連携する実践活動が地域や行政からも期待されています。

平成28年度から協会指定管理者制度がはじまり、平成33年からは生涯学習制度が刷新されます。これからは、新人、中堅、管理者の育成という縦方向のキャリアラダー構築と、領域別に管理者間で連携するための横方向のネットワークづくりが大切です。拙文を理学療法学45巻1号に掲載させていただきました。ご一読いただける機会があれば幸いです。



氏名 平石 勇次

都道府県士会 広島県

年齢 50

勤務先名称 介護老人保健施設熊野ゆうあいホーム

協会・士会役員歴

2005～2010年度 広島県理学療法士会 理事 職能局長
2015年度～ (公社) 広島県理学療法士会 常任理事 副会長・政策渉外部長

立候補の趣旨

この度、(公社)日本理学療法士協会の代議員に立候補させていただきます平石勇次です。現在、(公社)広島県理学療法士会では副会長および政策渉外部長を務めております。旧組織では、職能局長も務めておりました。私が県理学療法士会に携わってきた間、理学療法士を取り巻く環境はかなり変わってきています。その中で、会員の皆さまへどのような貢献できるのか考えつつ、理学療法士の社会的信頼や地位を維持するためには、接するご利用者に我々がどのように貢献させていたかどうか、組織的に一体感を示しながら社会に何が貢献できるのか考えながら臨床や会運営にあたらせていただいています。現状の立場の代議員としては、協会の活動を理解し協調するとともに、広島県の会員の皆さまの声が協会に届くような活動をしてまいりたいと思います。



氏名 藤高 祐太

都道府県士会 広島県

年齢 33

勤務先名称 西広島リハビリテーション病院

協会・士会役員歴

平成24年4月～現在 広島県理学療法士会 広報局 部員
 平成29年4月～現在 広島県理学療法士会 広報局 普及推進部長
 平成29年4月～現在 広島県理学療法士会 理事

立候補の趣旨

私は現在まで10年間回復期病棟で働いております。当院では50名以上の理学療法士が所属しており、半数以上が20歳代の後輩にあたります。私の年齢は一般社会では若手から中堅への移行期にさしかかる年代ですが、職場では私も中堅からベテランの域に達してきております。

このような立場の現場で日々感じることは、若手スタッフや育児中の女性スタッフにももっと働きがいのある職場にしたいということであり、私もそれを支援できるように日々務めております。働き方改革により「ワーク・ライフ・バランス」が叫ばれる現在、「単なる仕事」から「働きがいのある仕事」にシフトチェンジすることが大切なことだと思います。そのためには、卒後教育におけるキャリアデザインの構築や、育児中の女性にも働きやすい環境を整備する必要があると考えております。

私自身若輩者ではありますが、会員の皆様に働きがいを感じられる組織にしたいと思い、代議員に立候補させていただきました。よろしくお願いいたします。



氏名 板場 英行

都道府県士会 広島県

年齢 67

勤務先名称 のぞみ整形外科クリニック

協会・士会役員歴

<協会>
 ・代議員：1984年～2007年
 ・学会評議員：1999年～2003年
 ・教育局研修部長：2007年～2010年
 ・公益社団法人理事：2012年～2016年

<士会>
 ・広島県理学療法士会理事：1977年～1978年
 ・高知県理学療法士会理事：1985年～2002年
 ・高知県理学療法士会会長：2003年～2006年

立候補の趣旨

昭和41年に創立した日本理学療法士協会は、半世紀の歩みを通して、職能団体、学術団体として着実に発展を遂げてきた。次の半世紀に向けたさらなる発展向上と国民の負託に呼応する組織として、また「尊厳ある自立とくらしの保持」「理学療法学の探求、創造」「必要な政策提言と社会的行動推進」の協会理念を遂行する上で、協会の責務は多大である。

一時の体調不良により協会理事の職務を辞した身であるが、体調の回復を背景として、役員歴で記した協会、士会での今までの活動を基盤に、協会のさらなる発展、躍進に向け代議員としての職責を遂行したい。



氏名 高橋 哲也

都道府県士会 広島県

年齢 54

勤務先名称 島谷病院



氏名 山口 雅子

都道府県士会 広島県

年齢 51

勤務先名称 広島パークヒル病院

協会・士会役員歴

平成15年～平成16年度	(社) 広島県理学療法士会 東部地区理事
平成17年～平成20年度	(社) 広島県理学療法士会 地区理事
平成18年度	第11回広島県理学療法士学会 副学会長
平成21年～平成22年度	(社) 広島県理学療法士会 副会長
平成22年～平成23年度	(社) 日本理学療法士協会 代議員
平成23年度～	(公社) 広島県理学療法士会 副会長
平成24年度～	(公社) 日本理学療法士協会 代議員
平成26年度～	(公社) 日本理学療法士協会 代議員
平成28年度	第21回広島県理学療法士学会 学会長

立候補の趣旨

進む高齢化と人口減少の中で、増え続ける理学療法士。高齢者を対象とした理学療法はやがて飽和状態をむかえ、職域の拡大を図ると共に専門性を明確にすることが医療専門職として求められています。地域包括ケアシステムに代表されるように、地方への権限移譲が行われる中、日本理学療法士協会と都道府県理学療法士会が適切に役割分担と関係性を保ち進んでいかなければなりません。また、今年度の診療報酬・介護報酬同時改定と医療計画、介護保険事業計画、医療費適正化計画などの一斉見直しに始まり、2025年超高齢社会、2045年以降の少子社会を想定した理学療法士の方向性を確立も更に重要です。私は理学療法士が将来の夢と希望が持ち続けることができるようこの代議員活動を通して、上記に対する取り組みに意思表示をしたく立候補させていただきます。よろしくお願いたします。

協会・士会役員歴

協会役員歴	
H14～H25	教育局生涯学習部部員
H25～H27	生涯学習業務執行委員会企画研修小委員会委員
H18～現在	代議員
士会役員歴	
H15～H17	理事：教育局長
H17～H27	理事：副会長
H27～現在	監事

立候補の趣旨

私は7年の臨床経験ののち理学療法士の養成に携わり、再び活動の場を臨床に戻して、現在は、高齢者に対するリハビリテーションサービスを担う、病院および併設老人保健施設に勤務し、リハビリテーション部門の管理運営の任に就いております。先輩方をはじめ周囲の皆さまに支えられて、理学療法士免許取得から30年を無事に過ごすことができましたが、理学療法(士)を取り巻く環境はこの間、大きく変化したように感じます。次年度は医療・介護同時改定となり、超高齢人口減少社会となる2025年、2035年に向かっての様々な課題が掲げられています。その時代のニーズに沿った、安心安全で質の高い理学療法を社会に提供していけるように、そして、理学療法(士)がこれからも社会から必要とされるように、日本理学療法士協会の活動に微力ながらも継続して関わっていきたいと考え、代議員に立候補いたしました。

私が初めて代議員に就任した当時には女性代議員は2名だけでしたが、会員数と代議員数の増加に伴い、女性代議員もずいぶん増えました。しかし、会員数10万人を超える団体であり、会員構成の男女比が3:2の団体としては、まだまだ少ない状況にあります。昨年の役員選挙では代議員制に対応した初めての選挙制度の中で投票を行い、改めて、そして今まで以上に、代議員の責任を重く感じたところです。これからも女性会員の一人として会員の声を少しでも届けられるよう代議員を務めてまいりたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



氏名 崎元 直樹

都道府県士会 広島県

年齢 43

勤務先名称 市立三次中央病院

協会・士会役員歴

備北支部部長（平成20年～22年）
学術局 学術研究部長（平成25～27年）
常任理事・学術局長（平成27～現在）

立候補の趣旨

高齢化により疾病構造が変化する中で、医療保険制度及び介護保険制度も変化し時代に合わせた理学療法が必要とされています。

医療現場においては、多くの方が複雑な疾病構造を抱える中、早期からの適切なリハビリテーションを展開する専門職として、理学療法士の必要性がより高まっています。介護・福祉現場においても医療ニーズを併せ持つ方々が増える中、基本動作から支える専門職として理学療法士の必要性はこれまで以上に高まっています。この現状に対し、理学療法士協会の方針と臨床の現状が乖離するようなことがあってはならず、協同していることが必須です。

現在、私は県士会の学術局長を務めさせていただいておりますが、臨床家としても20年の経験を積んでまいりました。その中で、学術活動と臨床での活動が協同することの重要性を学んできました。適切な理学療法を実施するためにはエビデンスが重要であることは言うまでもありませんが、その追及は臨床現場と乖離してはいけなとと考えています。学術を知っている人間、臨床を知っている人間が協同し真摯なデータを集約し考察していくことで、理学療法はこれからも発展すると考えます。日本理学療法士協会も同様に協会だけの方針だけでは発展しません。臨床の現状を伝えていくこと、臨床家の意見を真摯にあげることによって協会の活動がより理学療法の発展につながると考えます。

非力ではありますが、臨床家として現場と日本理学療法士協会が協同するための一助となるよう努めさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。